

比較文化会報

May 1983 No.4

事務局 青森県弘前市総町13—1
編集兼発行者 山浦拓造

弘前学院大学英米文学佐藤研究室
電話 (0172) 34—5211 内線 73

とんだ文化

福島支部長 森 一

鳥がとぶのは当りまえで、とばない鳥こそ不自然である。一時「とんでる女」という言葉がはやったが、これもまもなくとんでしまった。同じ脊椎動物、人間より下等な鳥とも自力で空をとべるのも、考えようではいまいましい。そのせいか、ジェット機がとびかう時代でも、やはり自力で、ハンギンググライダーに挑む若人の夢は高まる一方である。

東北新幹線の「やまびこ」。盛岡駅を発車して、わずか八、九の駅に停車するだけで、他の一〇〇以上の駅をとんでいる。その名のとおり、谷をとび、あなた山へつきあたり、もどってくる「こだま」であるから、とぶのは当りまえであるが、とばされた市町村は文化にとり残された感じで精気に乏しい。都おば朝の六時に発ちたるに「昼食前に白河の関」「松島や はや衣川 盛岡か」では能因法師も芭蕉も句を考える間のあるはずもない。

宇宙では、電波が、人工衛星が、弾道弾が、そして怪情報がとびかう。オリンピックの体操競技は、チビッコ選手がとんで、まるでバッタやコオロギの

運動場だ。議場では知性が枯渇するたびに声がとぶ。書かなくても文章がでる機械が表れた。文字に変わるのだから、これが本当の文化だ。人間も卵子と精子を持参すれば、赤ん坊を受けとるに出来るだけでよくなった。おまけに男の子を望むか、女子が欲しいか、いずれ予約制になるだろう。まさに世界は飛躍するのだ。

「ローマの休日」の主演女優も五四才、週間誌で見たその顔には、他の女性同様、公平に時が刻まれている。しかしそれではおもしろくない。まもなくコンピュータは、妙齢の乙女の顔に並べて、五十年経った先々の顔をも、テレビに写してくれるだろう。つまり過去・現在・未来である。以前にある大学の教授は、現在活動している心臓の強さから割りだして、あと何年何月何分まで生存できるかを測定できることを発表したことがある。

昔、戦没者の弔辞を読んだ自治体の長が、読めない字にしばし絶句し、側近に「とべ、とべ」と言われて、弔辞を持つたまま飛び上ったという実話がある。も

ちろん、とんで地に落ちたわけである。今や省くことは日常茶飯事になりつつある。マンガは満面であり、文字を省き出費を省く知ノ集団で書店は大入りである。食事ぬき、文字ぬき、言葉、計算、建築工事の手ぬき等々。核家族が急激に増加したときには、パパぬきという言葉があったが、今や育児ぬきが目立ってきた。政府の省庁だって仕事を省くところとも読めるのである。昔から、先生や役人が左遷されたり、僻地に追いやられることを、とばされた、と言ってきた。

昔から、とんだことになった、とか、とんでもない、という言葉が使われている。「とんだ」とは、「とんでもない」の意である。とんでもないのに、とんだとは何だ、となると、まるで落語のようになってしまうが、「とんで火に入る夏の虫」のとえもある。定着という言葉があるが、流浪の民は農耕民となって初めて定着しえた。不自然であるはずの、とばなくなった鳥は、大地に肢をつけ、とぶことから歩行に移行する。そして、とぶための翼に大事なエネルギーを使わずに脳に廻せることになる。文化とは、余計な手数をかけ、手間を省かないことに一つの意味を持っていると思うが、とび道具をふんだんに利用しすぎて、手間も手順もとばし、そのあけくに人がとばされるならば、本当にとんだことになる。

(福島医科大学生物学科教授)

ヘレン・ハンフと

会うまで

副会長 芳賀 馨

『チャリング・クロス街84番地』の、ジエイムズ・ルース・エヴァンスによるステージ・アダプテーションが一九八一年夏、ロンドン郊外ソールズベリ・プレイハウスで公演されて大好評を博しているのを知ったのは、その夏の私のロンドン再訪を終えたあとであった。

『84番地』のテキストを開文社から出版した一九七九年、「まえがき」に、「書簡集という形態をとった実にすばらしい一篇の脚本であると思う」と私が指摘して以来、私は彼女の作品に内在する秀れた作劇術に注目してきた。それだけに、ルース・エヴァンスの『84番地』公演の成功は、わがことのように嬉しかったのである。一九八一年十一月二十六日には、『84番地』の公演は、ウエスト・エンドのアム・パサデズ劇場へ進出したのであるが、開演公演には原作者ヘレン・ハンフ自身もカーテン・コールに添えて実に感動的なオーブニングだった出である。

一九八二年一月十四日付、私宛のヘレン・ハンフの手紙につきの一節があった。「84の公演が終わらないうちに、あなたロンドンへ行つてらっしゃい——ただ、

何時になるかは判らないけど、やがてニューヨーク・演がきつとあると思うので、ニューヨークへいらした方がもっといいとも考えます。」

『朝日新聞』に、そのニューヨーク公演の前ぶれを見たのは一九八二年の秋である。ブロードウェイの例の「アクターズ・スタジオ」の名女優エレン・バースティンがヘレン役をするというのである。クリスマス・シーズンの公演とのことであるから三月末までは公演が続くものと期待して、私は春休中にニューヨークを再訪して、『84番地』のブロードウェイ公演を見ることを決め、さらに、ヘレン・ハンフと会うことを望んで彼女に連絡をとった。

すべての手続きを終えて三月末のニューヨーク再訪をたのしみにしていた三月始め、ブロードウェイのネーダランダ劇場における『84番地』公演が二月末で終演になったことを知った。私のニューヨーク再訪は、他の劇のブロードウェイ公演を見ることと、ヘレン・ハンフに会うこととの二件にかわっていた。

ニューヨーク、ペンシルヴァニア駅のすぐ前のスタットラー・ホテルに宿をとって、ヘレン・ハンフにニューヨーク到着を告げ彼女の都合で会見日時をきめてもらった。三月三十一日、午後四時、彼女のアパートを訪ねることとなり、当日午後町へ出て所用を終えて（五番街のスクリブナーズ書店でサインをしてもら

うための『84番地』原本を購入したことも自分としては用意周到だったと自己満足をして）いよいよエロー・キャブで出かけようとした途端に、連続的に乗車拒否に出会わした。日本の東北の、どかな町、福島あたりで生活していると、タクシーの乗車拒否など夢想だに出来ない。そのうちに、どんどん約束の時刻が過ぎていく。とうとうたまりかねて、公衆電話からヘレン・ハンフに連絡をとる。「何故こんなに乗車拒否されるのだろう」と私が聞くと、彼女は「そんな話聞いたことがない」という返答。結局ホテルへ帰って再度電話連絡をとって、結局翌四月一日のスケジュールの合間をぬって十二時すぎ彼女の外出の前三十分会うことにした。

四月一日、午前中、コーネル大学付属病院を見学したその足で、七十二丁目のヘレン・ハンフのアパートを訪問する。ドアマンの連絡をうけていたヘレンが自分のアパートの戸をあけて通路に出ていて私共夫婦を招き入れてくれたが、私の最初に発した言葉は「ああ、ついに私はここへ来た」というおおよそ非形式的なものであった。

彼女の例の本棚に飾った囃子こけしが実に映えていたことや、マンハッタンの高級住宅地の整備された町並みなど諸々の印象がまた脳裡にやきついていているが、それにしてもヘレン・ハンフとの出会いが、正にドラマティックだったことが

彼女の作劇術を重視する私には（皮肉な意味で）いかにもびびったりしていたように思われる。

For Kaoru Haga, to whom I owe so much, and whom I waited so long to meet!

With thanks, Helene Hanft

『84番地』にかいて貰ったサインを見ながら、つぎの『ハンフ論』の構想を今は真剣に練っている。

（福島県立医大・外国語講座教授）

比較文化学の一視座

副会長 花田 隆

比較文化（学）の大前提は、多様な文化の存在、つまり文化間の差異或は各文化の固有性・独自性の認識にある。嘗つて人々は、人間らしい文化は自己の所属する社会のそれのみと信じて疑わなかった。そこには比較文化学的発想や文化人類学のアプローチが育つ土壌はなかった。しかもそれは相当高度な文化・文明を構築した社会集団に却って著しい傾向であった。いわゆる中華の思想や基督教文化中心主義はその好例である。しかし近代科学の発展に伴い人種の・文化的偏見が逐次（少くとも理念的には）解消され、すべての文化を均しく没価値的に受け容れようとする態度が育成されて、ここ

〈近況報告〉

に比較文化の苗床が出来上ったわけである。一方、交通運輸や通信伝達の手段における革命的進歩は世界を相対的に縮少し、地球は今や一つの大きな村(M・マクルーハン)に過ぎないという情況を呈しつつある。そのため、クロス・カルチュラルな類似化が急激に進行して巨視的には比較の対象が減少しているようにみえる。だが反面、社会・文明の急激な進展と共に生活・文化等における流行・変化のテンポが加速化していくので、人は加齢と共にその変容に追いつけなくなってきた。かくして、同一文化圏内における世代間のトータルな文化落差の幾何級数的上昇曲線と、水平的な異文化間落差の同様な下降曲線とが近い将来クロスし、時と共にその狭間隔を狭めていきそうである。(かかる仮説に対する定量的立証もまた斯学の新ジャンルと考えられよう)。もしそうだとすれば、

本学会第三回大会において筆者が触れたように、比較文化における比較の基軸は、単に空間的な次元のみに止らず、時間的なそれをも用意せねばならないであろう。例えば、およそ半世紀前迄は夢想だにされなかつた少年の家庭内や校内暴力が民族(文化)や国境をこえ横断的に先進工業諸国に同時頻発し出したということも、かかる縦断的なカルチュラル・ギャップの拡大が属した象徴的事象の一つのように思われるからである。

(弘前大学教育学部教授)

スコットランドにおけるチャールサー派詩人の一人、ロバート・ヘンリスン(一四二五?—一五〇六?)の『フルギヤ人ソップの寓話集』(二三篇二九七五行)を翻訳中。

弘前学院大学 鍋島 能正

五十六年八月から一年間、アメリカ・ペンシルバニア州に留学し、五十七年八月に弘前に戻りました。ひたすら学校と家との往復でしたが、それでも様々な人に出会い、数々の刺激を受けてきました。しばらくは日本に腰をすえて頑張ってみたいと思っております。

弘前学院大学 小林 俊哉

過日五所川原市郊外の野鳥の森へ探鳥に出かけた。昨年よりも種類や数が減り、淋しい思いをしたが、これは広範な森林伐採が原因したのではないか。自然破壊が生物に影響を及ぼすことを実感した気持ちになった次第である。

弘前学院大学 佐藤 幸正

文明の悲哀

毎日の新聞やテレビで紹介される大事件を聞いたり見たりする度に、私は世にいう文明、文化とか発明発展とは逆な

いやーな気持ちになります。文化産業等の発展ははたして我々を幸福にしているのでしょうか。

弘前学院大学 山浦 拓造

「人間の基本的問題とその解決」と題して、昨年はイスラエルの王ダビデの事例研究をしました。今年も、同じテーマのもとで、ヨブ記と取り組んでいきます。関連文献や研究の仕方などの点でよいアドバイスがありましたら、よろしくお願ひします。

東北女子短大 坂本 直道

国際日本文化研究会設立

昨秋、同名の研究会を設立した。日本は明治以来、欧米の文化を吸収し続けて近代化を達成してきたが、近年の日本と欧米のコミュニケーションギャップに鑑み、英語関係者が英語を使って、インタナショナルなレベルで日本文化を研究して行こうという趣旨。

山形大学 飯島 武久

日本大学芸術学部演劇学科の主催する「ニューヨーク観劇ツアー」(昭和五十三年三月二十七日〜四月五日)に参加して、マンハッタンに散在する演劇学校二校とブロードウェイの劇場で四つの演劇公演を見て来た。大きな収穫だった。

福島県立医科大学 芳賀 馨

今年度より入会の、青森明の星短大の三浦清進です。今は、日英語の「アスペクト」比較考察、及び、精神分析学の交流分析理論から「自我状態」なる概念を借り、日米両国人のコミュニケーション様式を分析し、日本人英語学習者のコミュニケーション能力上達法を模索中です。

三浦 清進

本年四月より、群馬県高崎市に新設されました新島学園女子短期大学国際文化学科に移りました。信じられないほどの忙がしさに目を回していますが、日本比較文化学会の関東支部設立には少しでも協力させていただきたいと願って居ります。

太田 敬雄

大学の国際交流委員長として、姉妹校テネシー大学との学生交換や、七人の少人数ながら五カ国という国際性の高い留学生グループへの講義に忙殺されています。七月と八月、文部省在外研究員としてカナダとアメリカに出かけます。

弘前大学・学会事務局長

西村 清巳

今年八月二十八日〜九月三日、東京の京王プラザ・ホテルで開かれる「第三回国際菌学会」のシンポジウム「酵母と菌類の化学分類」のなかで、「子実体の脂肪酸組成」というテーマで発表するため、目下、英文原稿を準備中です。

十和田湖のワーズワースを辿って

今年の正月をロンドン、フランス、スペインでむかえた私は『プリリュード』の中のロンドン、フランス滞在の章句がチームズやセーヌの岸辺で強烈に頭をかすめたが、私のワーズワースはどこにもいなかった。

光星学院野辺地工業高校

町屋 昌明

猫の額のような庭に今年も九種類位の野菜を植えて、その生長ぶりを毎日楽しんでいきます。勉強の方はとても野菜のようには行かないが、それでもハーディの詩作品や戯曲はなんとかしたいと思っています。

弘前大学 佐藤 憲和

アメリカの中のアジア

昨秋三週間許り渡米した。◎紐育で「サッポロラーメン」の看板を見て入った店が、アジア人だが日本人の店ではなかった。味もサービスも下の下。◎首都の古いジョージ・タウン地区で、ベトナム人経営、タイのコックがいるレストランでインドシナ風シーフードを食べた。質・量・価格とも云うことなしで堪能する。ベトナムやラオス人のウエイトレスが東洋的なシャイ、ひかえめの中に暖かい心配りをしてくれ心なごんだ。二晩か

よった。◎ハンスビル(アラバマ州)空

港へ出迎えてくれた友人(米人)が、途中我々のため日本食品店へ寄った。各種の日本食料、日本の雑誌等が置いてある。日本人と違ってレジで聞いたら韓国の人が多かった。◎桑港の夜はツアーバスに乗る。チャイナタウンでは中国系のガイドがついて超早口の英語でまくし立てた。一時間のショッピング解散を前に彼曰く、「如何にも中国風のものの中に日本製がかなりあるから気をつけて買物をして下さい」トタンにかなりの数の眼が我々三人の日本人の方を見て笑った。その夜のツアーにアジア人は我々だけだったが。

弘前大学 花田 隆

郡山学会で発表した「八戸風絵と津軽風絵の比較」が契機となり、其の後六十二枚の藩政時代に画かれた八戸風絵の原本を発見し、目下その復元に大奮しています。復元が完成した時機にまとめて冊子にしたいと思っています。ごく身近かな所に研究課題が案外隠されているのに驚いている今日この頃であります。

弘前大学 岩岡 豊麻

カリフォルニア大学院の、ノーブル総合学術研究所属のノーブル基準検定会より、学位の認定結果の授与のため、八月下旬渡米の予定です。

東北女子大学 藤原 廉作

医学英語の基礎研究を続けているつもりなのですが、遅々としてはかどらないのにはイライラします。昨今ワープロが流行とか、私のところにもそんなものがあつたら、とも思うのですが、いやいや問題はやっぱりお前自身だ。という声はどこからか聞こえてきます。

福島県立医科大学 引地 岳雄

JACC行事記録

。第4回大会理事会・総会(57・6・5(土))決議事項

- ① 鍋島能弘(弘前学院大)の副会長依頼の件。新学長 山崎保興(弘前学院大)の顧問依頼の件。日本放送芸術学会 長 江上照彦(相模女子大学)の顧問依頼の件。(御三氏より後日御快諾を得ましたのでお知らせします。)
- ② 会員名簿作成
- ③ 会計報告
- ④ 次年度会場校(弘前学院大学にて6月4日(土)開催に決定)
- ⑤ 論集発行(芳賀馨編「ヘレイン・ノンフ論」が58年4月出版されました)
- ⑥ 会報に近況欄を設ける(4号から掲載予定)

- 。理事会(57・8・7(金))
- ①名簿作成 ②発表者募集 ③講演者に

郷土史家藤本光幸氏を内定 ④シンポジウムのタイトルを「翻訳と翻案」に。(出席者 花田・芳賀・西村・太田・佐藤(憲)・佐藤(幸) 於弘前学院大)

。石川茂雄先生(前東北女子大学長)より、次の著書を寄贈されました。青森県自然環境調査集成 一九七二〜一九七三。石川茂雄論文集

青森県の自然(昭52年・北方新社)

以上各一部、大切に保存させていただきます。

。当学会は日本放送芸術学会との共催で、左記の通り、第五回例会を開催。

日時 昭和57年9月25日(土)15時
会場 弘前大学教養部 14番教室
講師 相模女子大学 江上照彦先生
演題 情報と文化

。太田敬雄先生弘前大学から新設の新島学園女子短期大学へ教授として栄転。これに伴ない、日本比較文化学会・青森県アメリカ学会・青森英語談話会の三者共催による送別会を58年3月2日に開催。

。理事会(58・3・14(月))
第5回大会打合せ。関東支部発足の件。振替口座の件。(鍋島・花田・芳賀・西村・佐藤(憲)・太田・宇野・小林・佐藤(幸))

。第5回日本比較文化学会案内別紙プログラム通りの予定です。